

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

【申請団体】

申請団体名	浪江まち物語つたえ隊
(協議体の場合のみ) 代表団体名	まち物語制作委員会
(申請団体の) 代表者の職・氏名	会長 小澤是寛
協議体構成団体①	
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

【団体情報】

団体ホームページ	www.facebook.com/namiematimonogatari 浪江まち物語つたえ隊
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません。

1 事業名

浪江まち物語 紙芝居及びアニメーション化事業

2 事業の目的及び地域課題 (200字以内)

3.11の大震災と原子力災害により多くの浪江町の住民は故郷を追われ、県内外避難をしている。自然災害のみで有ればこの様な広域に避難する事は無かった。家族・故郷の絆を少しでも忘れる事の無く、一日も早い心の復興を出来るようにする事が大切で有る。又原子力災害による地元を離れざる人々に何処にいても「故郷は浪江」と思える、昔話と3.11以降の記憶を風化させない様にする。

3 事業の必要性 (200字以内)

風化が進む中、故郷浪江まちには今だに帰還の目途さえ立っていない。多くの人が浪江を忘れようとしている現状に歯止めをかけるため、浪江の物語を紙芝居にしてきたが、紙芝居上演に限界がある。制作したまち物語をアニメーションにしネット等で配信することで全国に散らばる避難者の浪江町に対する想いを繋ぎ止め、併て震災・原発事故の風化防止を図る。

4 事業内容

【実施取組1】

浪江まち物語の紙芝居上演会および意見聴衆会

主な活動地域：福島・宮城・茨城・埼玉・ 千葉・神奈川県・東京都等	実施期間：H27/6月～H10月末
-------------------------------------	-------------------

【取組内容】（100字以内）

これまで制作した浪江の紙芝居を全国で避難生活を送る福島県の人に対し上演し、そこで聞き取りを行い、後世に残すべき浪江の物語を決める。また聞き取りを行う中、新たな浪江の物語を聞き出し紙芝居にしていく。

【実施取組2】

浪江まち物語のアニメーション化及び紙芝居化事業

主な活動地域：	実施期間：H27/12月～H28/3月末
---------	----------------------

【取組内容】（100字以内）

意見聴取会やアンケートにより、後世に残すべき浪江町物語を決定し、それをアニメーション化する。また、聞き取りを行った被災の物語を紙芝居にする。

※実施取組に合わせて、数を追加してください。

5 事業効果（各200字以内）

3.11の東日本大震災・東京電力の原発事故で、家族・地域の絆を崩壊された被災者達を、故郷浪江の昔話・震災後の物語を見る事により、心の復興に寄与出来る。

3.11以降の物語は、自然災害の避難の物語、原発事故による避難、風評被害の物語が有り、これらを全国いや国外の防災教育に活用出来る事が出来る。

【情報発信力】復興関連の取組（イベント等）を事業の主な目的としている場合のみ記載

6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】

この団体は、3.11以降に広島「まち物語制作委員会」が、原発事故による避難者の絆の崩壊を感じて、故郷の昔話の紙芝居化より始まった団体で、紙芝居の上演者の教育及び現在の物語の情報収集などの方策の指導を受けながら活動している。此れをマスターして今後、活動を継続する為の人員確保の教育を実施する。

紙芝居・DVDを見た方々からの要請が有れば出向き上演と指導をする。

【ネットワーク形成の観点】

福島県の浜通りの3.11の被災地及び原発事故の影響で避難を余儀なくされている地区は、広島「まち物語制作委員会」との連携はされている。この繋がりを福島県はもとより全国の自治体と連携して、被災者の心の復興および、防災教育の資料として行きたい。

7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

※表が足りない場合は、適宜追加してください。

月	実施取組 1	実施取組 2
6月	全国紙芝居上演・意見徴収	随時、紙芝居にしていく
7月	県内各地紙芝居上演	
8月	全国紙芝居上演・意見徴収	浪江まち物語決定 アニメーション制作開始
9月	県内各地紙芝居上演	
10月	全国紙芝居上演・意見徴収	
11月	県内各地紙芝居上演	アニメーション完成
12月	県内各地紙芝居上演	
1月	県内各地紙芝居上演	ネット配信、DVD作成・配布
2月	県内各地紙芝居上演	
3月	県内各地紙芝居上演	

8 事業の実現性について（200字以内）

浪江まち物語つたえ隊これまで32本の福島物語を紙芝居にし、福島県内のみならず全国で上演し、被災者の心の支援を行ってきた。その中の物語で浪江町の避難物語「見えない雲の下で」は紙芝居から絵本になり、絵本からラジオドラマになり、それを元にアニメーションにした実績を持つ。

9 事業終了後の展開・発展性（200字以内）

制作したアニメーションを増刷し全国のみならず全世界に配信していく。実際、「見えない雲の下で」は3月の世界防災会議に併せ行われた福島でのシンポとスタディツアーに参加したブラジル・インド・バングラデシュ・ロシア・台湾・メキシコの市民グループにより翻訳され配信することとなっている。また、28年度以降も順次、紙芝居をアニメーションにしていくことで将来にわたって故郷 浪江町を語り継いでいく。

10 事業の先進性・普及性（200字以内）

今回の福島で起きた、東電の福島原発事故は何時どこで起きるかわからない状況で事前災害による被災及び人的災害の恐ろしさを一人でも多くの方々に知って戴く事が大切で有るかを知って戴く為の手法の一つで有ると信じています。
常日頃の防災教育の大切さと、風化をさせない事が今後の被災者の減少に成ると信じています。

11 特記事項（アピールポイントなど）（200字以内）

防災教育の大切さを多くの人びとに周知する機会に、各地の楽しいイベントと組み合わせて、紙芝居・アニメーションを使い集客が出来ると思います。
「浪江まち物語つたえ隊」の活動では極力アニメのDVDと紙芝居を使い活動をして、3.11以降の物語を伝えています。県外の方々に今回の原発事故・自然災害の風化防止のする為の手法として頂ければと感じています。
DVDは一度に多くの方々に見て頂けるので良いです。

12 その他の助成金について

① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ	はい/いいえ
② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区別することができる。	はい/いいえ

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区別することができない場合は応募できません。

第3号様式（第4条関係）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 浪江まち物語つたえ隊

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	828	上演会の調整、企画、実施事務、実施後のアンケートの取りまとめ、上演先との調整。（6～9月 8h×900円×20日×3.5か月）、（10月～3月 4h×900円×15日×6か月）＝828,000円
報償費		
旅費	480	浪江町民が避難する近県3県（宮城県、茨城県、埼玉県など）めぐり上演会を行い意見聴衆を行う。 3人×3万円（1泊2日）×3か所＝270,000円 紙芝居読み手指導・研修会 福島～広島 広島～福島 2人×6万円（1泊2日）＝120,000円 活動拠点での宿泊 相馬～桑 5回×6,000円＝30,000円 アニメ制作打合せ 福島～広島 1人×6万円（1泊2日）＝60,000円
需用費 a1+b1+c1	515	
消耗品費 a1	95	事務用消耗品、コピー用紙・インク代
燃料費 b1	180	上演会・等交通費（車）往復30km 25円×40延台＝30,000円 往復120km 25円×5延台＝150,000円
印刷製本費 c1	240	上演会用チラシ 3か所×30,000円＝90,000円 DVD媒体・パッケージ 300本×350円＝105,000円 パッケージ等印刷費 300本×150円＝45,000円
役務費 a2+b2+c2	24	
通信運搬費 a2	24	郵便料 24,000円
手数料 b2		
保険料 c2		
使用料及び賃借料	90	上演会会場 3会場×30,000円＝90,000円
委託料	2,039	アニメーション制作

		アニメーション台本制作	1式×30,000円=30,000円
		音声：スタジオ使用料 AOZ 録音スタジオ	24H×500=12,000円
		録音機材使用料 AOZ 録音スタジオ	24H×300=7,200円
		作画 15分×60秒×8コマ	7,200枚×200円=1,440,000円
		消耗品費 インク・用紙他	1式×100,000円=100,000円
		動画編集機器使用料	160H×2,000円=320,000円
		消耗品費	1式×30,000円=30,000円
		紙芝居製作費	1作品×100,000円=100,000円
A. 支出合計	3,976	千円未満切捨	

【自己資金の部】 ※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

(単位：千円)

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	796	
寄付金等	796	寄付金及びクラウドファンディング
その他収入		
事業収入		
B. 自己資金合計	796	千円未満切捨

【補助金交付申請額】 3,180千円 (A. 支出合計－B. 自己資金合計)

注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。

注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。

注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。